君津市地域おこし協力隊活動報告

隊員名：深山 雅弘
指名日：令和４年 11 月 10 日

活動月	令和５年　２月
主な活動内容	**1. 空き家利活用の視察に行きました。** **2. 松丘地区の空き家ツアー参加** **3. 小糸地区の市民団体の支援を開始しました。**

１．空き家利活用の視察に行きました。

私が支援しているコミュニティ清和のメンバーと、市原市加茂地区で空き家と移住希望者をマッチングする事業を行っている「開宅舎」さんに視察に行ってきました。

開宅舎の高橋さんは地域おこし協力隊として空き家利活用に従事し、任期満了時にそれまでの活動を引き継いで、自らの事業として立ち上げられました。高橋さんのお話しはどれも大変参考になったのですが、私がいちばん感心したことがあります。

開宅舎さんは地域に移住された方の暮らしぶりを紹介する「月刊開宅」という小冊子を毎月発刊しています。私はてっきり移住を検討されている方へのPR用として作られているのかと思ってましたが、実は違うんです。

これは地域の方々に向けて「今度こういう方が来られましたよ」と移住者の自己紹介に使うんだそう。古くからそこに住んでいる人にとっては、どんな人が引っ越してくるのか心配だし、移住される方はこれから地域の方々と上手くやっていけるか不安。

その小冊子を通じて地域と移住者をつなぎ、双方の不安をなくし、移住者がその地域で安心して豊かに暮らせるためのお手伝いをする仕事。これは、不動産会社ではなかなかできない事ですね。

空き家に光を -開宅舎
http://kaitaksha.com

２．松丘地区の空き家ツアー参加

君津市の久留里・清和・亀山・松丘地区の移住者で組織する「つなぐ」さんが主催する空き家ツアーに参加し、移住先や２拠点住居を探されている方々とご一緒に、君津市松丘地区の空き家を見学してまいりました。

きれいな家具や家電が残され、今すぐ引っ越して住めそうな家から、レストランやカフェに最適なログハウスなど、バリエーション豊かな５件の空き家達。なかでも驚いたのは、本格的な水槽が併設された「鯉の養殖場が併設されている家！」。君津で鯉の養殖事業を始めてみたいという方、是非いかがですか？

今回アテンドしてくださったのは、子ども達が下校時にみんなで遊べる場所づくりをされている「かずさっ子クラブ」の平井さんです。お昼は平井さん手作りの絶品スパイスほうれん草カレーをおいしくいただきました。今後も「つなぐ」さんとは密に連携し、空き家の掘り起こしや移住促進活動に注力してまいります。

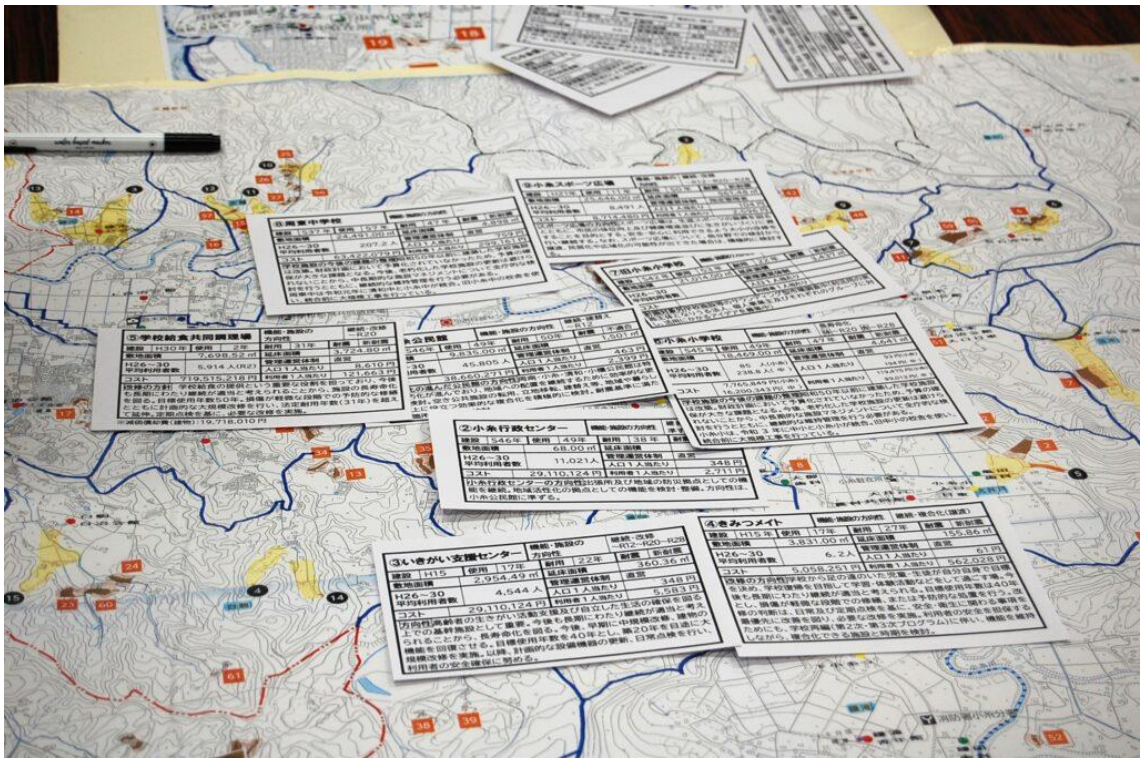
地域おこし
君津市
協力隊

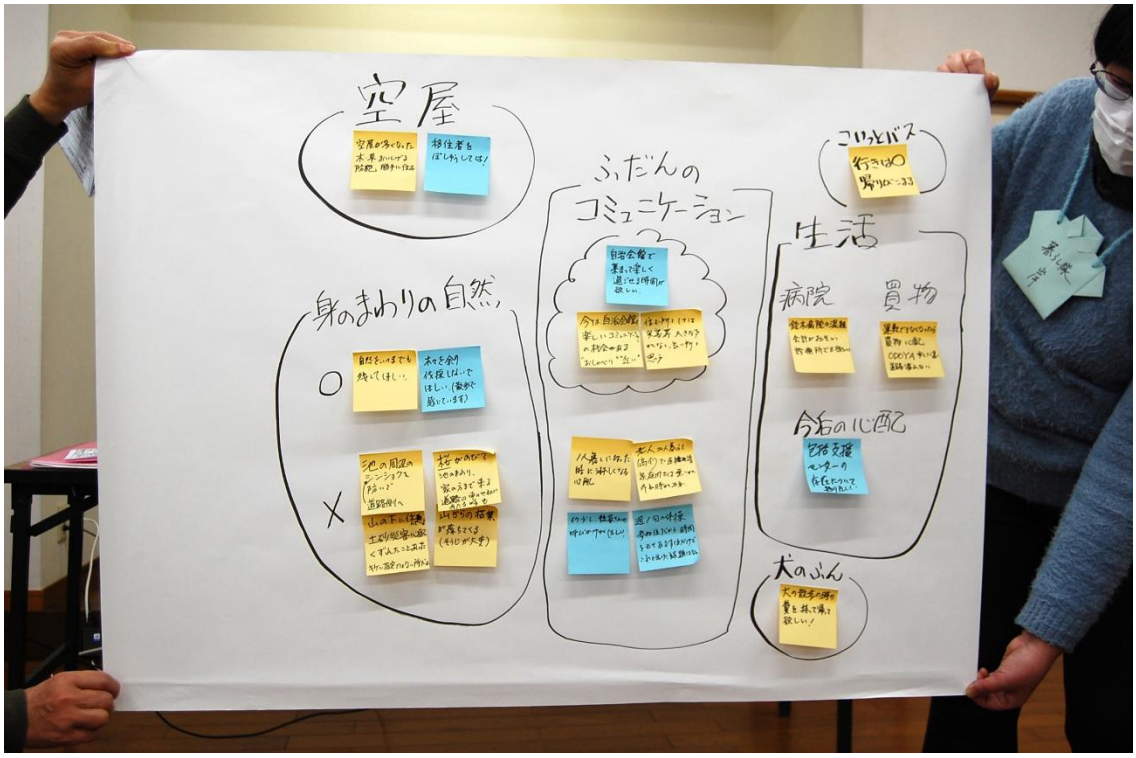
つなぐ － 人と家・暮らしと文化
https://www.instagram.com/kimitunagu/

3. 小糸地区の市民団体の支援を開始しました。

君津の小糸地区で活動する市民団体「君津の暮らしを考え隊（通称：暮らし隊）」の支援を開始し、代表的な活動である「出張 井戸端会議」に参加してきました。

小糸地区は君津の市街地とコミュニティ清和のある清和地区の間に位置します。地区内には小学校や公民館をはじめ、たくさんの公共施設がありますが、少子高齢化や人口減少により小学校は統廃合され使われなくなり、多くの公共施設は老朽化が進み、立て替えや他用途への有効活用が望まれています。



空き家のことはもちろん、交通のこと、災害や農業のこと、にぎわいの創出など、地域の課題は数多くありますが、限られた財政事情のなかですべていっぺんに解決できる訳はありません。ただ、その解決の優先順位をつけるのは、そこで暮らす住民であるべきとの考え。暮らし隊は、地域住民の声をひろく集め、それらをとりまとめ、住民の総意として行政に届ける活動をしています。

今回の「出張 井戸端会議」では、旧来から小糸地域で暮らす方々や、都市部から移住されてきた方も交えて積極的な意見交換が行われました。本会のアドバイザーを務める熊本学園大学の大塚教授の講義の後、公共施設の現状の説明をし、参加者の意見やアイディアをボードに貼り、２つのアイディアマップが成果物として完成しました。